

毎号リレー形式で江田島市内で活躍する人やお店を紹介!

interview

すべては『縁』で
つながっている。

江田島訪問看護ステーションえん
佐久間 泰三さん&松村 友賀さん



GoON!



江田島オー
梶田 克哉さん

ETAJIMA GoON! Vol.12

『家』という選択肢。



Vol.12
江田島訪問看護
ステーションえん
佐久間 泰三
松村 友賀

ては、まさにタイミングだった。「退院後の自宅での生活に不安を抱えている方、通院が困難な方など、僕がこれまで関わった患者さん以外にも、悩みを持つ方はたくさんいらっしゃると思います。そこで、住み慣れた自宅に直接訪問し、生活をサポートできるようなことになることで、これまでとは違う形で貢献ができるのではないかと思っています」

4月から働くこととなった「江田島訪問看護ステーションえん」の管理者・松村さんが「佐久間君がうちに来てくれるって言うってくれた時、とても嬉しかったけど、みんな悲しまないかって心配もしました笑」と言うほど、佐久間さんは患者さんにも大人気。「そう言ってもらって、有難いですよね。患者さんにも、まわりの人たちにもよくしてもらって、仕事もプライベートも充実している。関わってくださるみなさんに感謝しています」と優しい笑顔で話す佐久間さんは、個人的な今後の目標もこう話してくれた。「これから自由に動ける時間が増える分、仕事だけでなく、趣味のSUP(サップ)を通してだったり、畑仕事などを通して地域のひととの交流を増やしたい。僕も何らかの形で、地域おこしができるような人になりたいですね」

新しい働き方を自ら実践し、新たな可能性を見出す。佐久間さんの笑顔から、やりがいを感じて働くことの大切さを、改めて学んだ気がした。

「江田島訪問看護ステーションえん」は、今年1月1日にオープンしたばかりの新しい訪問看護ステーション。メンバーは元々一緒に働いていた同僚や上司、すでに市内で活躍するケアマネージャーさんなど、スペシャリストが集まっている。

管理者の松村友賀さんは、島の病院におたの訪問看護師として6年ほど働き、「えん」を立ち上げた。「病院の体制が変わるとい話を聞いて、今後も病院で働き続けるというよりも、療養者さんから近い存在で寄り添った形でケアができ、医療介護従事者さんや、地域に住む方々が気軽に話に来れるステーションを作ろうと思ったんです」一人では相当難しい挑戦。松村さんに手を差し伸べてくれたのは、知識や経験も豊富な看護師の先輩たちや旦那さんだった。「私より断然知識も経験も豊富な先輩方に話をしたら、快く手伝ってくれると言ってくれて、そこが一番大きかったです。みんながいれば心強いし、やってみよう!と思っただけでした」

また、以前より構想していたという「訪問看護とリハビリの連携」という形も、佐久間さんが力を貸してくれることになり実現した。信頼を寄せるメンバーのひとりである松田さんも、病院で働いている時から同じことを思っていたという。「リハ

江田島訪問看護ステーション えん

4月1日には「居宅介護支援事業所えん寿」が開設予定!みなさまのご相談にお応えし、安心できる最適なケアプランをご提案します。

大柿町小古江 1576-7
☎ 0823-27-6035
✉ zaienn20220101@gamil.com




「江田島訪問看護ステーションえん」の思い

「江田島訪問看護ステーションえん」は、今年1月1日にオープンしたばかりの新しい訪問看護ステーション。メンバーは元々一緒に働いていた同僚や上司、すでに市内で活躍するケアマネージャーさんなど、スペシャリストが集まっている。

管理者の松村友賀さんは、島の病院におたの訪問看護師として6年ほど働き、「えん」を立ち上げた。「病院の体制が変わるとい話を聞いて、今後も病院で働き続けるというよりも、療養者さんから近い存在で寄り添った形でケアができ、医療介護従事者さんや、地域に住む方々が気軽に話に来れるステーションを作ろうと思ったんです」一人では相当難しい挑戦。松村さんに手を差し伸べてくれたのは、知識や経験も豊富な看護師の先輩たちや旦那さんだった。「私より断然知識も経験も豊富な先輩方に話をしたら、快く手伝ってくれると言ってくれて、そこが一番大きかったです。みんながいれば心強いし、やってみよう!と思っただけでした」

また、以前より構想していたという「訪問看護とリハビリの連携」という形も、佐久間さんが力を貸してくれることになり実現した。信頼を寄せるメンバーのひとりである松田さんも、病院で働いている時から同じことを思っていたという。「リハ

理学療法士として「島の病院おたに」に長年勤め、この春から場所を変え新しい働き方に挑戦する佐久間泰三さん。そんな佐久間さんの新しい勤め先となる「訪問看護ステーションえん」の管理者・松村友賀さん。二人に仕事や地域への思いなどについて、お話を聞きました。

『地域に必要な人になるために』

佐久間さんは、元々介護士として東京にある老人ホームに勤めていたが、理学療法士の資格を取るため広島へ戻り、専門学校に入り直したという経歴がある。資格が取れたのち、島の病院におたにに勤め始め、江田島の景色や人の温かさによって移住を決意したという。「理学療法士としては12年。患者さんの身体的なアプローチを中心に、リハビリ全般を担当しています」

江田島市に来てから、仕事のつながりだけでなく、移住者や地域のひととの交流も増えた。「知り合った仲間たちが地域貢献に奮起する姿に触れ、自分には何が出来るのだろうかと思うようになったんです」周りに刺激をもらい、仕事でも、別の形でも、地域貢献をしていきたいという思いができた佐久間さんは、より柔軟に動くための新しい働き方を、長い間模索していたという。そんな時、長年一緒に働いていた元同僚が、訪問看護ステーションを立ち上げるとい話を聞いた。佐久間さんにとつ

